

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 理念、教育目的が新中期計画と矛盾していないか2010年度中に点検し、矛盾している場合2013年度中に再設定する。	→再検討結果の報告書。	C	C			
2. 理念、教育目的を教員及び学生に対して2010年度中に周知する。	→教員、学生への周知	A	A			
3. 学科単位での教育目的を2011年度中に設定し公表する。	→公表したホームページ	C	C			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★	小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 【理工学部の理念】 自然科学の基本原則とその応用について教育と研究をおこない、自然科学と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する。 【理工学部の目的】 1) 数学、物理学、化学、情報科学、生命科学の幅広い分野にわたり、基礎的研究を中心におきながら応用も視野に入れ、それぞれの分野が相互に緊密な連携を保ちながら常に先端的でレベルの高い研究を行う。 2) しっかりとした自然科学の基礎知識と能力を身につけ、基礎を応用に繋げていくことが出来る柔軟な思考力を養い、未知の問題を発見していく能力と、その未知の問題に果敢に挑戦し、解決していくことが出来る能力に優れた、創造性に溢れた人材を育成する。 3) 自然科学の知識と能力とともに、幅広い教養を養い、キリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育てる。 4) 社会との強い繋がりを絶えず念頭に置き、自然科学をとおして社会に大きなインパクトを与え、また、その技術的応用を通して、人類の進歩に寄与することが出来る教育と研究ならびに人材の育成を行う。 (説明) 上記のように理念・目的は明確化している。しかし、新中期計画における「KG 学士力」等の設定が遅れているために、それらとの整合性は検討できていない。 2010年5月教授会において、教員に周知し、適切性について検証した結果、文言について指摘があり、2010年6月教授会において、修正を行った。
	小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 理念、教育目的について、既にホームページで公開している。さらに教授会で教員に周知し、学生に対しても入学時に周知徹底している。
	小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 大学・学部の理念・目的の適切性について、毎年年度初めに学部長室委員会及び教授会に於いて検証している。
	その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価  
 卒業生がどの程度スクールモットー(マスターリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】  
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】  
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率  
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率  
 理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数  
 理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。	
★	小項目0.0.1
	小項目0.0.2
	小項目0.0.3
	その他
↓	
《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。	
★	小項目0.0.1
	小項目0.0.2
	小項目0.0.3
	その他

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	社会との繋がりを強化するため、理系を拡張し応用分野の更なる充実を図る。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	学生増も視野に入れた理系分野の拡張を検討し、新中期計画の前期終了年度（13年度）までに方向性を示す。
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

その他 (自由記述)	
---------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○学科単位での教育目的の設定、公表が進められていますが、学部理念・目的の点検についても今後の進展が望まれます。

【学内委員】

○理工学部の理念・教育目的は学部内ではきちんと設定され、大学構成員に対してもHPなどで適切に公表されていると思われ、この点は非常に評価できます。さらに、理念や目的についても定期的に検証が行われている点も大いに評価できます。進捗評価がCとなっているのはKG学士力との整合性がまだチェックできないため、現時点では大きな問題ではないと思われ、目標2の進捗度評価がAとなっているため、効果が上がっている項目で具体的な説明が必要です。

○学部の理念・目的がきちんと定義され、HPでも公表されています。その事を評価します。さらに学科単位で定めることを期待します。

○理念・目標が設定され、周知・公表、検証も行われており評価できます。今後は、どれほど学生や社会に周知されているかを測定され、理念・目的が浸透するよう一層工夫されることを期待します。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・理工学部独自のHPを立ち上げ理工学部の理念・目的・教育目標を公表していることは評価できます。「大学・学部の理念・目的の適切性について、学部長会及び教授会に於いて定期的に検証している。」とのことですが、具体的な事例を挙げ説明する方がより分かり易いと思われ、

・現時点での理工学部による進捗評価はCとなっていますが、2009年度より6学科体制となり、2013年度に行われる理念・教育目的の再設定に向けて順調に内容の検討が進展しています。理念・教育目標の公表および内容の検証については、さらに積極的に行うことが望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

0.01 (現状説明)

理工学部のあり方について、理念・目的と照らし合わせて問題ないかどうか話し合った。現在社会的にも理系分野の充実の要求が高まっている中、理工学部の新分野の増設も考慮して、話し合いを行った。

★ 0.02 (効果が上がっている事項)

2009年度以降、理工学部において学科の数が増え、教員及び学生の数が増えた。さらに、新任の教員も多数採用されたので、理念・目的を確認することで、新しい理工学部の今後の教育についてのコンセンサスを得ることができた。